

## プラスチック資源循環戦略（案）について

## 1 背景

- 廃プラスチック有効利用率は世界全体では未だ低く、不適正な処理による海洋プラスチック等による環境汚染が世界的な課題となっている。
- 日本国内では、適正処理・3Rを率先し、国際貢献も実施している一方、1人当たりのワンウェイの容器包装廃棄量が世界で2番目に高いことや、アジア各国での輸入規制が拡大する中、これまで以上に国内資源循環が求められているといった現状がある。

## 2 基本原則 — 3R+Renewable（持続可能な資源） —

## 3 重点戦略

## (1) プラスチック資源循環

## ① リデュース等の徹底

- ワンウェイ\*プラスチックの使用削減 \*通常一度使用した後にその役目を終えること  
↳ レジ袋の有料化義務化（無料配布禁止等）の「価値づけ」
- 石油由来プラスチック代替商品開発・利用の促進

## ② 効果的・効率的で持続可能なリサイクル

## ③ 再生材・バイオプラスチックの利用促進

- 可燃ごみ指定袋等へのバイオマスプラスチック使用

## (2) 海洋プラスチック対策

⇒ 海洋プラスチックゼロエミッションを目指す

- ① ポイ捨て・不法投棄撲滅・適正処理
- ② マイクロプラスチック流出抑制対策  
↳ 2020年までにスクラブ製品のマイクロビーズ削減徹底
- ③ 海洋ごみ（海岸漂着物等）の回収処理
- ④ 代替イノベーションの推進  
↳ 海で分解される素材の開発・利用促進
- ⑤ 海洋ごみ実態把握  
↳ モニタリング手法の高度化、地方自治体等との連携強化

## (3) 国際展開

- ① 途上国における実効性のある対策支援
- ② 地球規模のモニタリング・研究ネットワークの構築

#### (4) 基盤整備

- ①効果的・効率的で持続可能なリサイクルシステムの構築  
↳ソフト・ハードのインフラ整備 等
- ②資源循環関連産業の進行
- ③技術開発  
↳再生可能資源による代替品の開発や転換、革新的リサイクル技術の開発 等
- ④調査研究の推進  
↳マイクロプラスチックの影響、流出状況、流出抑制対策
- ⑤国、地方自治体、国民、NGO、事業者、研究機関等の各主体が連携協働  
↳「プラスチック・スマート」の展開
- ⑥情報基盤の整備  
↳「エンカル消費」（人や社会、環境に配慮した消費行動）
- ⑦海外展開基盤

#### 4 目指すべき方向性

(リデュース)

- 2030年までに、ワンウェイプラスチックを累積 25%排出抑制

(リユース・リサイクル)

- 2025年までに、リユース・リサイクル可能なデザインに
- 2030年までに、容器包装の6割をリユース・リサイクル
- 2035年までに、すべての使用済プラスチックをリユース・リサイクル  
それが難しい場合は、熱回収も含めて100%有効利用

(再生利用・バイオマスプラスチック)

- 2030年までに、再生利用を倍増
- 2030年までに、バイオマスプラスチックを最大限導入

#### 5 今後の戦略展開

- 戦略的展開を通じて、世界全体の資源・環境問題等の課題解決に寄与することに加え、経済成長や雇用創出が見込まれ、持続可能な発展に貢献する。
- 国民各界層との連携協働を通じて、マイルストーンの達成を目指すことで、必要な投資やイノベーションの促進を図る。